

# 平成19年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第7号（7月後半～8月前半）

平成19年7月19日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	葉いもち	平年並
		穂いもち	平年並
		紋枯病	平年並
		ニカメイチュウ	少ない
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	平年並
		トビイロウンカ	やや多い
		コブノメイガ	やや多い
		斑点米カメムシ類	やや多い
		果樹	ナシ
黒星病	平年並～やや多い		
シンクイムシ類	やや多い		
ハダニ類	やや少ない		
アブラムシ類	やや少ない		
うどんこ病	平年並～やや多い		
カキ	チャノキイロアザミウマ		平年並
	果樹全般		カメムシ類 少ない

中国地方1か月予報（7月14日～8月13日・広島地方气象台7月13日発表）

<特に注意を要する事項>

日照時間が平年を下回っています。向こう2週間程度も平年並か少ない見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

気温	30%	40%	30%
降水量	20%	40%	40%
日照時間	40%	40%	20%

低
  平年並
  高い（多い）

防除所ではいもち病、水稻ウンカ類、果樹カメムシなどの最新情報をホームページ上に掲載しています。アクセスはこちら <http://www.jpnp.ne.jp/shimane/>

### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 葉いもち

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 7月13日現在、巡回調査地点における発生圃場率は8.6%（平年47.7%）、発病株率は2.2%（平年27.7%）と少ない。
- ② 感染好適日は、7月第3半旬以降、のべ33地点と高頻度に出現しており（平年6.7地点）潜伏感染も見込まれる（下表参照）。なお、7月第1半旬からの感染好適日の出現頻度は、18日現在、のべ56地点に達しており、過去10年で最も多かった平成15年度の7月の値、のべ36地点を既に上回っている。
- ③ 7月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

表1 BLASTAM による葉いもちの感染好適日の出現状況

	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17
西郷2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
海士	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
鹿島	-	-	●	-	●	●	●	-	-	-
松江2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
出雲	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-
大田	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-
掛合	-	-	-	-	●	●	●	●	●	-
横田	-	-	●	-	-	●	●	-	●	-
赤名	-	-	●	-	-	●	●	●	●	-
川本	-	-	●	-	-	●	●	●	●	-
浜田	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-
瑞穂	-	-	-	●	-	●	-	-	●	-
弥栄	-	-	●	-	-	●	●	-	△	△
益田	-	-	●	-	-	●	●	-	●	-
津和野	-	●	-	-	-	●	●	-	-	-

●: 感染好適日 △: 感染準好適日 - : 出現せず

(2) 穂いもち

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①伝染源となる葉いもちの発生量は平年並みと予想される。

②8月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

(3) 紋枯病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①7月13日現在、巡回調査地点における発生圃場率は22.9%（平年34.1%）、発  
病株率は3.4%（平年5.1%）とやや少ない。

②向こう1ヶ月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(4) ニカメイチュウ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

①予察灯、フェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べて少ない。

②7月中旬の巡回調査では、発生圃場率は0%（平年6.1%）、被害株率は0%（平  
年0.4%）で発生量は平年に比べて少ない。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

①7月中旬の巡回調査では、捕獲数は4.6頭（平年3.3頭/50株）、発生圃場率は  
53.3%（平年41.8%）で発生量は平年並みである。

②予察灯での誘殺数は平年並みである。

③向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は、浜田市で6月16日に観察された。それ以降まとまった飛来は6月25日、7月1～3日に認められた。7月第3半旬までの誘殺数はほぼ平年並みである。
- ② 7月中旬の巡回調査では、成幼虫が4.2頭/株（平年2.1頭）、圃場率は89%（平年81%）で発生量は平年並みである。
- ③ 向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならないが、梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(7) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は、浜田市、出雲市で7月1日に観察された。それ以降も飛来が続き、現在の累積誘殺数10頭（平年4.6頭）は平年に比べてやや多い。
- ② 7月中旬の巡回調査では圃場での発生を認めていない。
- ③ 向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

(8) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 飛来は現在まで断続的に認められているが、主要な飛来波は7月4～6日で、現在の累積誘殺数87頭（平年19.1頭）は平年に比べてやや多い。
- ② 向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。梅雨明けまでは多飛来に注意が必要である。

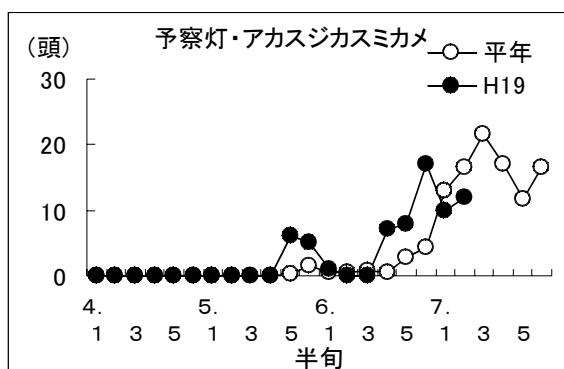
(9) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 6月下旬の圃場周辺雑草地でのすくい取り調査では発生量は平年並みである。主要種はアカスジカスミカメである。
- ② 予察灯へのアカスジカスミカメの飛来は、7月中旬までに66頭（平年40.9頭）で平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1ヶ月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県下ナシ（二十世紀）栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、平年に比べて発生量は少ない。
- ② 向こう1ヶ月の気象は本病の発生にはやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月中旬の巡回調査では、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1ヶ月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

予報の根拠

① ナシヒメシンクイ第1世代雄成虫の誘殺盛期は平年に比べやや早く、総誘殺数はやや多い。

② 向こう1ヶ月の気象は発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハダニ類

予報内容

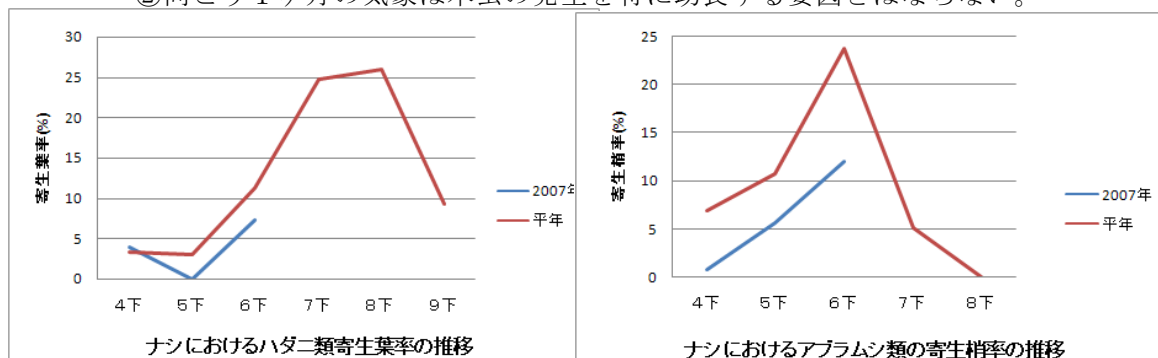
発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月巡回調査では寄生葉率7.3%（平年11.3%）でやや少ない。

② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。



(5) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 6月巡回調査では寄生梢率12.0%（平年23.7%）でやや少ない。

② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 6月下旬の巡回調査では、発生量は平年並みである。

② 向こう1ヶ月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) チャノキイロアザミウマ

予報内容

発生地方 県下カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

① 露地圃場に設置した粘着トラップでの誘殺数は平年並みである。

② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

3) 果樹全般（カキ、ブドウ、ナシ等）

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下果樹栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

① 露地圃場に設置した予察灯での7月3半旬までの誘殺数は42頭（平年720.3頭）で平年に比べて少ない。

② 向こう1ヶ月の気象は本虫の発生を特に助長する要因とはならない。

